

丹後宮津府志板書

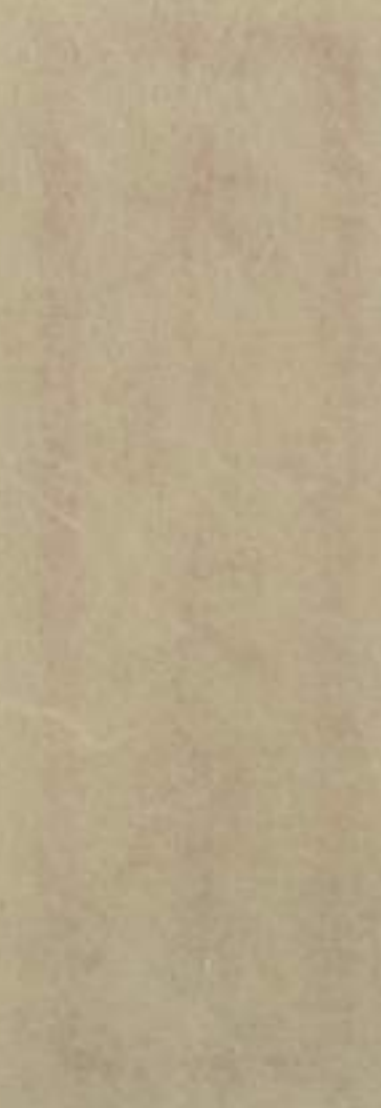
重文
洋学文庫
文庫8
A 74



卷一

宮保府志

校書



後冊

宮津府志

拔書

大槻文庫

宮津の人澤色玄端よりて橋立城久内殿と云
 物色をし生形を編了後生足流をつと人
 別上改定をし先之御舟りて、後多急して自
 伝と上と題せり、其體して臨氣す後、壇
 皇田原に被ひせり、行自伝をたたむ、此
 行りし、
 ○ 天橋立のゆとをいんと、流をたつ、おれは
 層層山林氏被り、其をらわの府志に在る、
 傳し、ふたれ、天橋立の條、外に、
 是は又、改二年己卯の、みまてあり、

丹後州宮津府志卷之三

名所之部

小林玄章成卿編集



天橋立 拾芥抄作 海橋立 属与謝郡府城西北半里計

天橋圖序云天橋立ハ伊弉諾尊伊弉册尊天乃
 浮橋の上より立玉ふより、其名、天橋立、予謝の海
 中、小ある、長洲之云、十六丁あり、土人、浮橋と云、は
 浮橋を、造る、なる、松橋、兼木の、橋、よ、連れり、
 碧、海、中央、あり、乃、松、也、他、り、て、待、人、志、里、の、松、と、稱、
 社の、近、所、松、橋、あり、て、ある、変、成、流、松、と、云、ひ、松、
 り、乃、か、り、る、を、と、流、松、と、云、濃、松、よ、い、新、木、も、ま、い、
 中、一、ま、さ、ら、故、紅、松、を、志、け、り、も、よ、み、り、松、也、
 あり、そ、乃、橋、立、と、も、よ、忍、り、松、予、之、保、ハ、稍、ひ、し、

けし一立ハ一の橋おろふと云り古事もあると云
ニ下はうろろ船かきあり是は九世戸と云世
切方の文障ともふも是なり此神のある方も文珠
堂の左方も共子橋立之堂の左方六所斗明神
の左方之十所斗之堂の後ハ牛本生ありとい
帝都より大江山平河を及を越く今の府
宮津と二十八里之西ハ香山麓凡のぬく隈
南ハ大山山麓と云び之北ハ越の海洲と
徳つく千里一眺望之其の雲社の月鉦の
晴夕の雨系象一すくは鳥丸光廣々の
君やともくんまの志のドとある之すく云の
此れもあはれた天のはけしと云と云 弘ひ一り実示

感深まると古一帝の功業もあつ將軍の文障
もあつり内かの後子乃日の渡りあ代の後かとも
はばし立たふあたらん此 已上天橋記

風土記曰丹後國与謝郡良方有速石里里中有長大
崎長二千二百二十九丈廣九丈二尺是名天橋所謂陰
陽二神立天浮橋之上是故得此名又名久志濱又名
久志之渡
和漢三才圖會曰相傳此嶋神代九世時始出来故名九
世戸又名切戸東西長二千二百二十九丈南北九丈二丈
内自北流南入海闊百七十八丈可舟渡云々
易津記曰切戸文障此と云物をえれとい文障ハ
天照太孫と地神三々天忍穂耳と二神一と海岸寺

すうはまゝに移しあつた天孫代は地孫二代成ると
非の世九世はあつて七代はこれを神とすうと九世は
名分降ふとあつて抑ハ佛法ハ人王之十二代用明天
皇の時に至る日本は佛法と云ふ名も知らず抑ハ
神代中何ぞの出来のまゝ成りや一向は信用小足
らぬ又救世戸あとも書記するも又えさう皆浮屠記
誘の譎説也古す切らずと云ふも色り櫛立の此と陸
の月女一切れてあまはこ又式部不音の戸か説と云
其もほしきハ奇異なる此をわしたるもあつた
ハ地孫神代すうの地勢と云えさう与謝郡 房中
江尻村と云所より尚上一二十坪丁細長く生か
る海傍之横幅ハ度々所々三四十坪もあつた

跡はさうき此もあつた流す際より終る此の
古すあつた大風なる痕も跡も此の切る例も
なく海上へ糸引くるあつた高直く生かす左右
よ藤松はえはく此のあつた河も枯れはあつた
此の代は藤松もあつた緑の色跡も昔藤松の
新の跡もあつた道林地も小石交りの溪之藤松より
外ハ更なる左右とも小流なる大海と云ふる艘の船
くふたり藤松の内は千貫松と云大木あり又其人松
今ハ枯れ切戸海傍の存松と云櫛立成神見神社部
の社ありは法木交り生かす道は視れハ本立存し
存する松と云は例も藤清水あり見下 矢野長古
日記の内は元禄十二年九月の以仙洞君の勅の由云

橋立の石をとりしよきありしよき一池なり終よ云橋立の
紅葉ふハサハ先九ツよあれて自余の楓といふまうと云
紅葉の合ありしを古より橋立の縁せし待歌也
る首よくくハ氏集天橋山智恩寺よあり又橋立の
葉内志晩山著も大略載る今二三を反よ抄し
出せり

詞華集雜上

源俊頼

かみまろの下の木え人ともあそそあつたゆる天のほし
金葉集戀

藤原範永

あつたゆる人よえそやわのゆも下おひあつた天乃こし
千載集旅

赤深樹門

なりあつたゆるやえそよと附乃ゆ此天の橋立都なりせば

續古今集

後鳥羽院

ほしとのちのけし川子刈字乃永きる下し涼むしらのる
玉葉集秋

大江茂重

橋立の松吹ける流ん入海とくさあゆむる氣
續拾遺冬

正親町院右京大夫

ふるもろよしくあそよ及此未まといりしあみ久天の橋立

題天橋

天寧寺愚中

天橋不可不來遊。足見神仙工運籌。巨塔蛻
鱗横曝骨。長鯨露脊未擡頭。蟠桃結實
乾坤老弱水無波。日月幽夜半。憑心誰藏
神裏持將飯。去壯皇州。

同

材庵

碧海中央六里松 天橋絶境是仙蹤
 夜深人待龍燈出 月落文珠堂裏鐘
 芥子園のそと 爲丸葉素阿羅羽林竹とけり
 立又り供奉 一て書生

法印玄旨

便ありて中より一を乃上人もりふり知ると乃橋迄
 海菴和尚傳の圖入行山は生一以は世にあり
 りて橋を北瓦系後一ふ打ふりやふり丸
 本少しとやふりやあわゆり葉是松
 元禄十二年八月拾七上人等從蘇波橋を
 派中へかふ名所ありけの月や又わたりての橋を

